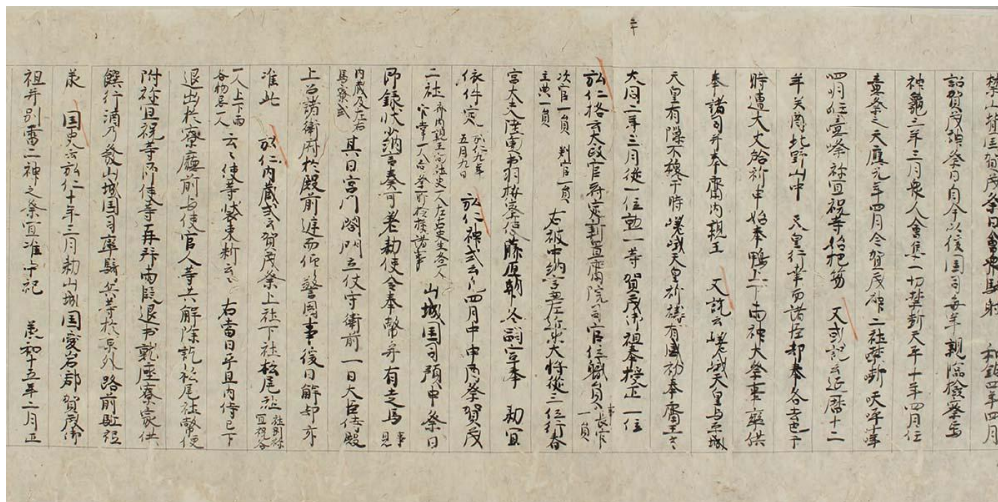


【主な展示資料】

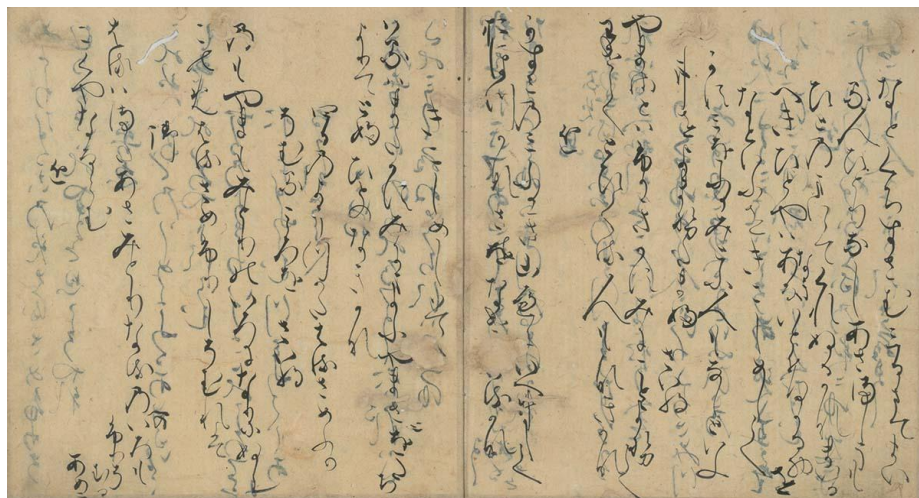


本朝月令 鎌倉時代 宮内庁書陵部蔵

平安時代中期に成立した、年中行事やその由来がまとめられた日本最古の公事書（くじがき）。

賀茂祭の規定に、斎内親王（賀茂斎院）が奉仕することが定められている。

本資料は、藤原北家の嫡流九条家に伝来した現存最古の写本。



【重要文化財】大斎院前の御集 鎌倉時代 日本大学図書館蔵

20歳頃の選子内親王と女房、交流のあった貴族との贈答歌を集めた歌集で、

四季で分類された394首が収録されている。

藤原定家（ふじわらのていか）らによる書写で、現存する唯一の写本。



源氏物語車争図屏風〔右隻〕 江戸時代初期 京都市歴史資料館蔵

『源氏物語』でも特に有名な場面「車争い」の舞台は、齋院御禊（ぎょけい）の行列であった。

仁和寺所蔵の「車争図屏風」（室町時代）の写しとされる本作は、鮮やかな色彩と人物の細かな描写、牛車（ぎっしゃ）の装飾によって、画面の華やかさが増している。



源氏物語絵巻 江戸時代初期 毛利博物館蔵

『源氏物語』20帖「朝顔」の一場面。

朝顔と女房が、光源氏から贈られた色つやの衰えた朝顔の花が付けられた文を前にしている。

毛利家に伝来した絵巻で、土佐派風の優美で優しい絵が特徴的である。



【重要文化財】源氏物語手鑑 権（あさがお） 安土桃山時代 和泉市久保惣記念美術館蔵
朝顔帖のうち、光源氏が賀茂斎院を退いた朝顔の邸宅を訪ねる場面。
近世初期に活躍した土佐派の絵師、土佐光吉（とさみつよし）の作品で、
『源氏物語』の各場面の絵と詞が対の全80面からなる。



【京都市指定文化財】平安京右京三条二坊十六町「斎宮」邸出土品
「斎宮」墨書土器 平安時代 京都市蔵
伊勢斎宮の邸宅跡と考えられている遺跡内の池跡で見つかった墨書土器。
斎宮邸からは、この他にもまじないに使ったと考えられる
大型の人形代（ひとかたしろ）など、特徴的な遺物が多く見つかっている。